

# 5カ国へ学生派遣

岡山大は一月にも、国連やNGOの災害救援、環境保護活動が展開されているスリランカ、トルコ、米アラスカなど五カ国の現場へ学生を派遣し、実習させる。本年度スタートした「『いのち』をまもる環境学教育」事業で、実践活動を通じて国連職員など国際職業人の育成を目指す。

国連職員や海外コンサルタントを目指すには海外での活動経験が求められ、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市榴津）、国連教育科学文化機関（ユネスコ）と連携する。

計画では、大学院生命環境学専攻の修士、博士課程の一年生を中心に計十三人を一週間から一カ月

## 岡山大の環境学教育事業

## 来月にも 被災者支援や調査

間派遣。スリランカでは、AMDAが行っているスマトラ沖地震・津波被災者の支援、工場排水など産業廃棄物処理の実態調査に参加する。モンゴル、トルコでは砂漠の緑化活動に従事。アラスカで地球温暖化の観測、ベトナムで地元大学との大学間協定締結をにらんだ研究交流を行う。

責任者の小野芳朗大学院環境学研究科教授は「日本の国連への貢献度は経済的には高いが、活動スタッフは少ない。国際貢献活動の盛んな岡山から、リーダーシップを発揮できる人材を輩出したい」と話している。

同事業は、文部科学省が優れた大学院教育を財政支援する本年度の「魅力ある大学院教育イニシアチブ」に選ばれた。岡山大は、国連大学から「ESD（持続可能な開発のための教育 拠点地域）」として認定された岡山市域の重点活動にも位置付けている。

# 岡山から国際貢献

# JICAプロジェクトで間野警視(岡山県警出身)

警察の民主化に向けて、国際協力機構（JICA）の改革プロジェクトが進むインドネシアで、岡山県警出身の間野洋児警視(46)がプロジェクトリーダーとして参加。「市民に信頼される警察」を目指し、警察官の意識改革や通信指令システムの確立、捜査能力の向上などに取り組んでいる。  
(斎藤章一朗)



交番をモデルにした「BKPM」で勤務内容について聞く(右から)間野さん、植松さん

## インドネシア

### 警察改革推進

首都ジャカルタから東へ約五十キロのプカシ市にあるメトロ・ブカシ署。

警察改革のモデルとして、プロジェクトが行われている警察署の一つだ。

十一月下旬、玄関に大勢のカメラマンが待機していた。人身売買事件の容疑者を逮捕し、記者会見があるという。逮捕の端緒は警察協力組織からの情報提供だった。「暴力で自供させる」と恐れられたインドネシア警察では「異例」。改革

の一端を示す出来事だった。

インドネシアの警察は二〇〇〇年に軍から分離し、民主化が始まった。

JICAのプロジェクト



は〇二年八月から五カ年計画で行われている。

間野さんは岡山県警本部警務課係長、会計課次長などを歴任。交通部門を除くすべての部署を経

験し、インドネシアの日本大使館にも勤務した。

玉野署刑事官をして

### 両国の懸け橋

ブルノ・メトロ・ブカシ署長の話 インドネシアが目標とする市民警察の姿が日本にある。安全は警察と市民との協力で成り立つ。

日本の支援プログラムは大変重要で、間野さんたちは両国の懸け橋になってくれている。

いた昨年五月、「治安維持の根幹にかかわる仕事」と、警察改革プロジェクトに魅力を感じ、派遣試験に合格。今年一月末、赴任した。

「市民から信頼されるには、まず通報や要望に迅速、誠実に応えることが必要」と間野さん。メトロ・ブカシ署に詰め、ジャカルタの植松信一警視監、元香川県警本部長と連携して、無線網の構築、鑑識技術の指導などに取り組んでいる。

鑑識活動では、日本の専門家が指紋の採取法などを伝授。同署の鑑識技術が国内トップを誇るなど成果を挙げた。

間野さんの日本での経験が、直接生かされるのは組織運営。交番をモデルにした施設「BKPM」を、インドネシア流にいかにか機能させるかなど、警察幹部と意見交換しながら進めている。さらに幹部を岡山県警などに派遣。今後は中級幹部に交番勤務を経験させることも検討している。

「日本流を押しつけず、一緒に考えることが重要」と間野さん。「インドネシア全土に改革が浸透するよう共に汗をかきたい」と話している。